

リウマチ便り

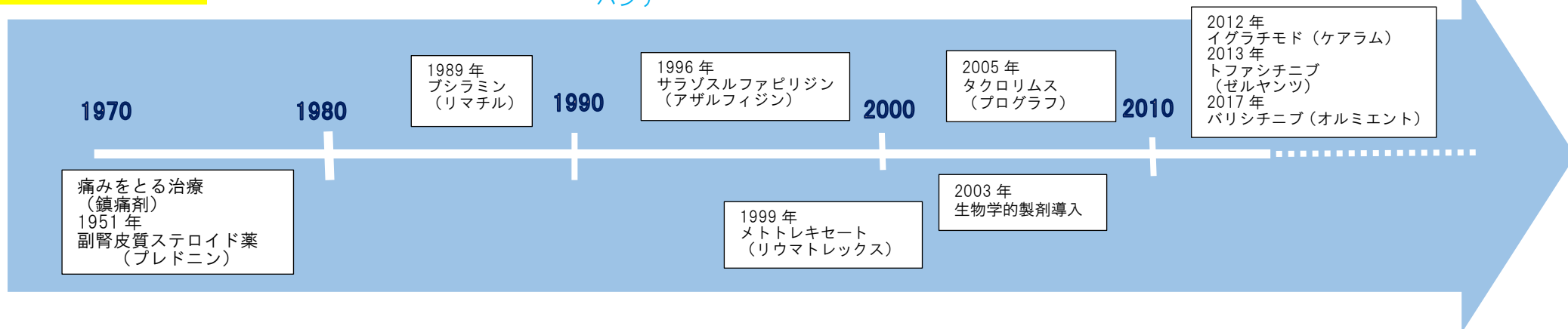
西の京病院 vol.4
2019年1月7日発行
文責：森

こんにちは、パンナです。今回は薬物療法の中心になる抗リウマチ薬のお話をしたいと思います。薬のことをしっかりと理解して治療に取り組んで頂きたいと思います



パンナ

抗リウマチ薬の歴史



○副腎皮質ステロイド薬 (プレドニン)

1949年に関節リウマチ患者に対して劇的な効果を示すことが発見されました。現在においても重要な薬 (キードラッグ) です。

関節リウマチ以外にも血液系の腫瘍や重症な感染症、閉塞性呼吸器疾患などに使用されています。

(副作用) 用量が多いと皮下出血が高頻度に発現します。胃潰瘍や骨粗鬆症などがあります。

○ブシラミン (リマチル)

日本で開発された薬です。欧米では使用されていません。感染症などの心配が少なく使いやすい薬剤です。

(副作用) 蛋白尿と皮疹があるため、診察毎に検尿検査をされるのが望ましい。まれに血液障害と呼吸器障害があります。

○サラゾスルファピリジン (アザルフィジン)

抗リウマチ薬の中では腎障害の少ない薬剤です。欧米では妊娠中も使用できる抗リウマチ薬の1つであり、葉酸1日5mgと併用して妊娠中も処方されています。

(副作用) 皮疹・発熱・肝障害があります。

○タクロリムス (プログラフ)

肝臓で代謝されるため食べ物や薬との飲み合わせに注意が必要です。高齢患者に対して有効性と安全性が検討されています。

(副作用) 腎機能検査値の異常、消化管障害、耐糖性異常があります。重篤なものとしては肺炎があります。



○メトトレキサート（リウマトレックス）

全世界の関節リウマチ患者の過半数が服用している治療の中心となる薬（アンカードラッグ）です。約60年前に白血病の治療薬として開発された薬です。のちにその免疫抑制作用が注目され、リウマチ治療に使用されるようになりました。副作用軽減のためにフォリアミンやロイコボリンという葉酸と併用するのが特徴です。

（副作用）肝障害、腎障害、口内炎、脱毛、頻度は低いですが重篤なもので間質性肺炎・骨髄抑制などがあります。

○イグラチモド（ケアラム）

感染症などのリスクが低い薬です。アザルフィジンやリマチルなどと同様の使用です。

（副作用）消化性潰瘍、重篤な肝障害、ワーファリン服用時の併用は禁忌です。

○トファシチニブ（ゼルヤンツ）

リウマトレックス効果不十分、又は併用で生物学的製剤と同等の効果がある飲み薬です。他の飲み薬に比べて速効性もあります。

（副作用）日本人に多いのは帯状疱疹（ヘルペス）です。感染症や肝臓の機能障害・黄疸、消化管穿孔、ガン、貧血などがあります。

☆金額は生物学的製剤と同等ですが飲み薬であることが大きなメリットです。

○バリシチニブ（オルミエント）

2017年に国内で承認されたゼルヤンツに続く2番目の飲み薬です。

（副作用）ゼルヤンツ同様に感染症、肝機能障害、白血球の減少、貧血、消化管穿孔、血中コレステロール値の上昇などがみられます。呼吸感染症や帯状疱疹は重症になることがあるため特に注意が必要です。



○生物学的製剤

最先端のバイオテクノロジー技術によって生み出された医薬品です。関節リウマチに対しては2003年から国内で使用が開始されました。

レミケード	点滴 リウマトレックスの内服が必ず必要です	8週毎の投与	2003年7月
エンブレル	皮下注射 (自己注射)	毎週投与	2005年6月
ヒュミラ	皮下注射 (自己注射)	2週毎	2008年6月
アクテムラ	点滴と皮下注射 (自己注射)がある	点滴は4週毎 皮下注射(自己注射)は 2週毎	2008年4月
オレンシア	点滴と皮下注射 (自己注射)がある	点滴は4週毎 皮下注射は 毎週投与	2010年9月
シンポニー	皮下注射	4週毎	2011年9月
シムジア	皮下注射 (自己注射)	2週毎	2013年2月
ケブザラ	皮下注射 (自己注射)	2週毎	2018年2月

点滴は化学療法室にて行っています。

皮下注射は針の見えないペンタイプもあり、自分でも簡単に注射することができます。

☆次回は手術についてお話しする予定です。

